ブドウ「高尾」の早期成園化・安定生産に向けた栽培技術の確立

【研究概要】

東京特産品種「高尾」の効率的な早期成園化技術として、各種根域制限栽培と剪定方法の違いによる生育特性を明らかにしている。定植３年目において、地植えや根圏制御栽培（以下、根圏）と比較して拡大型根域制限栽培（以下、拡大）で主枝長１ｍあたりの新梢数、花芽着生枝数が多くなる。いずれの剪定方法でも、主枝部から３本/ｍ以上の新梢が発生し、特に拡大では５本/ｍ以上と多い。果実品質については、拡大・切り返し剪定および拡大・短梢剪定で１粒重、果皮色、糖度が高い傾向がある。拡大と比較して根圏・切り返し剪定と地植え・長梢剪定は糖度が低かった。収量は、根圏・短梢剪定で 1,400kg/10a 以上、根圏・切り返し剪定および拡大・短梢剪定で 1,200kg/10a 程度だったが、いずれの試験区も 50%以上が下物となった。拡大・切り返し剪定は健全果率が 70.2%と高く、そのほとんどがＬ房であった。主要な管理作業時間は、剪定方法に関わらず、拡大で 400 時間/10a/人程度、根圏で 600 時間/10a/人程度かかる。